





ふき放り後ゆゑ教官^更より後苑と鳥檢せんふき
ぬし棚杖と後苑^田より利入^しゆゑんと^せぬせい^は
今とゆゑに^はた^りぬ

一トトス トクイニ^{休草} 二 樽 || デニロー^カ

休措 棚杖と後苑内^よ

一筋次一挙動

一 百九 棚杖と後苑より^し出と^し又より^し設^け
ぬ^るゆゑ^に連^て西^に乃^は位置^を後^に毎^日員^を乃^は後^に
と^は鳥^を檢^{する}事^を以^てゆゑ^に幸^ひい^はぬ^る事^を一^つ棚
杖^をゆ^づり^し後^に

一百十 教官兵士の前より到りて銃を教官より交
さんとして之をさく 打ちぬくは 其の如く 教官
銃より自ら自後より 浮きと 雲門より 出たり
やと 懸槍より 出たり 機銃乃 仰向き 槍
把りて 銃口内より 利ひて 出たり あり

ハクト、子一、デル、体、草、
ハトケ、エール
伸指 銃を下におけ

一筋次々二挙動何利

第一挙動

一百十一 右手にて自銃を回旋して銃機を後

乃方へ 向け乍時たると 乃銃包蓋の尖と把り
急り身を前より 曲けたるを 前より 初葉^帯乃利
子銃を急く 取りて 乃銃を 己、前乃地より
下へ 銃^尻乃 踏き 正し 右足^尻の 尖乃 向きと 同
かゝ め 右 銃を 曲け 踏をかゝ 揚

第二挙動

一百十二 人真面前を 望み 乃 是乃 側面より 槍
一 銃包蓋 乃 とも 地 あり とも 下より
出

子一ムトヲツア 伸指 ハットケウエール 伸指

流とありとけり

一筋次二 二拳初何里

第一拳初

一百十三 レクト子一テルヘツトケウエール 註

云の第一拳初に因

第二拳初

一百十四 流と起し是と志是乃例と初る

時右もさゆ〜流と回旋〜 柳枝と葉の向

け之的流包金乃と池ぬるもと更伝下小童

ヲツブスコウトル 体 草 川 へツトケウエール

